

ERINA地域セミナー

ロシアへの観光

日時：2019年2月6日

場所：朱鷺メッセ中会議室302

講師：新潟ロシア連邦総領事 ミハイル・セルゲエフ

私は1994年に初めて日本に来た。私の新潟とその住民の方々のお付き合いは、私が新潟ロシア総領事館での勤務を始めた1995年からだ。我が国の総領事館は当時、開設されたばかりだった。まさにこの頃、私は新潟とその住民の方々にはれ込み、今日まで貴市に非常に温かい気持ちを抱いている。

皆さんのなかに観光客としてロシアを訪

れたことのある方は多いだろうか？ ほぼ全員？ それは大変喜ばしいことだ！ では、始めよう。ロシアに旅行するには長時間飛行機に乗る必要があると思われているが、ロシアは日本からそんなに遠く離れているだろうか？ 例えば、新潟市とウラジオストクとの距離は約840km。これは札幌よりも240～250km 遠いが、1670km 以上離れている那覇市よりも近い。そんなに

遠くないではないか？ おそらく、そうだ。それにしても、これは相当な距離だ。どうすればそれを克服できるだろうか？ どうすれば日本からロシアに行くことができるだろうか？

20世紀半ばにはまだ、日本からロシア、またその逆への渡航は海路のみだった。船の時代を思い起こすと、このような旅行は、冷蔵庫やエアコンという現代の利器

が船に無いえ、渡航期間が6カ月に及ぶこともあったため、とても大変なものだった。まさに、このように大変な条件で、日外交関係は19世紀半ばに樹立されたのだ。

日本とロシア極東の港を時おり行き来する最新型クルーズ船は、もちろん、非常に快適だ。例えば、2019年5月23日から30日まで、東京からウラジオストクまで1週間のクルーズが計画されている。この便に関する情報はインターネット上にある。ロシアの法律に従い、この種の船の外国人乗客はロシアに72時間のビザなし上陸ができる。これは非常に便利だと思う。

民間航空機は、以前は非常に遠くて克服は不可能と思われていた距離を、速く、快適に旅行することを可能にする現代の交通機関だ。

日本からウラジオストクへの飛行時間は2時間弱である一方、東京からモスクワへは約10時間かかる。

観光旅行を選ぶ際のもっとも重要な基準の一つが輸送機関の使いやすさ、つまり定期航空路の存在だ。

残念ながら、新潟からロシアへの定期航空便は、現在は無い。チャーター便だけだ。私が貴市で最初に勤務していた当時、つまり1995～1998年には、新潟はウラジオストクとハバロフスクと定期航空便で結ばれており、夏にはイルクーツクとも結ばれていた。新潟とロシアの間に定期航空便が復活するよう、願っている。それに全面的に協力していきたい。

日本人観光客は現在、東京からモスクワ、ウラジオストク、ハバロフスク、ユジノサハリンスクへの直行航空便を利用することができる。イルクーツクとノボシビルスクへのチャーター便、さらに新千歳からウラジオストクへの便の開始も発表された。現在、2019年夏季運航スケジュールの作成が終わりつつある。これらの便の飛行地域は2018年よりも狭まりはしないだろう。

次に、これに劣らず重要な旅行地を選ぶ際のファクターが、ノービザ入国ができるかどうかだ。

残念ながら、ロシアと日本の間では、ビザ制度が存在し続けている。両国間の観光の促進のため、対日ビザ制度の廃止に至るまでそれを緩和する意向を、ロシアは既に何回か表明してきた。例えば、この

提案はエブゲニー・アフアナシエフ駐日ロシア大使の2015年12月のスピーチの中で発せられている。2019年1月にはロシアのセルゲイ・ラブロフ外相も、サハリン州と北海道の間のビザ無し往来の実現を提案した。

韓口関係の経験を活用することが可能だと考える。両国民のノービザ短期滞在制度の導入は、韓口両国の観光客の大幅な拡大を招いた。このような査証免除制度は中国やモンゴル、タイとの間でも施行されている。日本側はまだ、両国の特定のカテゴリーの国民に対するビザ条件の緩和にしか賛同していない。

ロシアから日本への観光については、ロシア人は通常、1週間以上の長期旅行をすることを念頭に置く必要がある。年に1万人ほどのロシア人観光客が新潟を訪れば、現地のホテル業界は6万泊から利益を得るうえ、レストランやその他の観光関連ビジネスも潤うことだろう。

これは現実的だろうか？ 現実的だ。毎年約140万人のロシア人観光客がタイを訪れている。他の数字、歴史的に新潟と緊密な関係のあるロシア極東の人口をみると、1万人というのは、ウラジオストクやハバロフスクのような都市の総人口の1%弱だ。

ロシア側は近年、外国人の入国ビザ手続きの一方的な簡素化のための大規模な施策をいくつか行ってきた。2018年には外国人のゲスト、つまりロシアで開催されたFIFAワールドカップの観客たちはノー

ビザで我が国に入国した。これよりも前にロシアでは、ウラジオストクを訪れるための電子ビザが導入された。日本国民は積極的にこの新制度を利用していると了解している。

ロシアは唯一無二のバラエティに富む国で、300以上の民族が暮らしている。少数民族もいるが、多数民族もいる。2010年のロシア連邦国勢調査の結果、その人口が10万人以上を占める民族は42ある。各民族が独自の文化、歴史を持っていること、観光客にとっては民族料理の存在が重要だということは、明らかだ。

日本人観光客が直行航空便で行ける都市については、既に述べた。では国内の移動はどうすればいいのだろうか？

ロシアの国土は広大なので、我が国の輸送機関は非常に重要な役割を演じている。ロシア国内で最もポピュラーな輸送機関は航空機、鉄道、自動車だ。

世界的に有名なシベリア鉄道はウラジオストクとモスクワを結び、世界一長距離の旅客鉄道だ。乗客は7日間で9259kmを走行することができる。もちろん、これは長い。多くの外国人旅行者がこのルートの道中、何回か途中停車する。もしこのような旅行をされるなら、そうすることを私も勧めする。

ロシアには、一目でその美しさと素晴らしさに魅了される素晴らしい都市、観光地が数多くある。

ペトロパブロフスク・カムチャツキー。写真1

写真1 ペトロパブロフスク・カムチャツキー



を見てほしい。そこには見る価値のあるものがあることが分かるだろう。3つの火山が街に迫っている。現地の旅行会社が温泉や火山、ヘリコプターエクスカージョン、乗馬トレッキング、クルージング、川下り、フィッシングのルートを多数、提案している。

ユジノサハリンスク。サハリ州の州都。第2次世界大戦終結までこの地は日本の領土だった。近年やってくる外国人観光客の85～95%が日本人だ。名所めぐり、エコツアー、フィッシングツアー、スタルジックツアーが日本人観光客の関心と呼んでいる。

ウラジオストク。まさにこの街からシベリア鉄道の旅が始まる。このロシア極東の拠点都市を訪れる観光客の数は2017年、300万人を超えた。また、外国人観光客の数は13%増加した(64万人超)。

ハバロフスク。鉄道でウラジオストクからモスクワまで行く途中の最初の大都市。ご存知のように、新潟市とハバロフスク市は姉妹都市だ。ハバロフスク、ウラジオストク、ユジノサハリンスク、ペトロパブロフスク・カムチャツキー、イルクーツクは、サンクトペテルブルク、モスクワに次いでロシアで日本人観光客が多いところだ。

ビロビジャン。ユダヤ自治州の州都。この都市はとて小小さく、人口はわずか7万5000人。しかし、どんなに美しい街か見てほしい。

ヤクーツク。シベリア鉄道より北に位置する都市。

ウラン・ウデ。地方観光拠点の一つ。ウラン・ウデでは、仏教寺院のそばに正教、旧教の教会が立地する。この町は常に多民族都市であった。18世紀には既に、ロシア人、ユダヤ人、ポーランド人、ブリヤート人、中国人、タタール人、ジョージア人、アルメニア人などがここに住んでいた。市は豊かな森林に囲まれ、130km のところに有名なバイカル湖がある。

イルクーツク。シベリアの多くの都市と同じ

写真2 モスクワ



く、17世紀半ばに出現した。イルクーツクはロシア欧州部と中国、モンゴル、ロシア極東と結ぶ、重要な観光・工業ルート上に位置し、急速に発展、成長してきた。

クラスノヤルスク。シベリアの工業、学術、文化の拠点。同市はエニセイ河岸、モスクワから東へ3955km のところに位置する。クラスノヤルスクはシベリア鉄道の要衝、ロシア連邦道路 R297 (モスクワ-ウラジオストク間) の要衝だ。市内には大きな空港があり、多数のロシアの都市への乗継ができる。

オムスク。100万都市オムスクはオムスク州の州都であり、ロシアの巨大都市の一つだ。同市は人口ではシベリア第2位、国内第10位だ。さらに、シベリア鉄道の要衝でもある。地理的には、オムスクはエルティシ川流域に立地する。

エカテリブルク。ウラル地方の拠点都市、ロシアの特に人口密度の高い都市の一つ。

ベルミ。面積ではロシアで3番目の都市。約200年の間、ウラル地方の正式な拠点都市だった。2008年に建基285年を祝った。

美しい建築で知られるニジノヴゴロドは多くの旅行者の気に入るに違いない。

ウラジミル。特に観光客が多い「ゴールデ

ン・リング」の都市の一つ。ここにはロシア中世のすばらしい白い石造りの建築物が残っている。もっと後世の16～20世紀の建築物もとても興味深い。ウラジミルには1日で見学しきれないほど、たくさんの美しい教会がある。

素晴らしいロシアの首都、モスクワ(写真2)。世界有数の人口密度の高い都市の一つ。国の重要な経済拠点のみならず、真正正銘のロシアの宝物庫としても知られる。赤の広場、ノヴォデヴィチ女子修道院、ポリショイ劇場、雀が丘。これはモスクワで見ることのできるもののごく一部だ。ここでウラジオストクから着いた列車を降り、サンクトペテルブルク、カーニングラード、シンフェローポリなど他のロシアの都市へ向かう列車や飛行機に乗り継ぐことができる。

サンクトペテルブルクはロシアの貴重な宝と呼ぶことができる。約300年の歴史を持つロシアの帝都。この素晴らしい街を訪れることを強くお勧めする。日本の旅行会社にこの観光ルートのプランが豊富にある。

ロシアの間でもクリミア観光ルートは人気がある。日本人観光客が、歴史豊かな、ホスピタリティ溢れる美しい地域にめったに行かないのは残念だ。